

第40回技能五輪全国大会 技能五輪くまもと2002に参加して

大分県立工科短期大学校 生産技術科 栗林 仁

平成14年10月に熊本県で技能五輪全国大会が行われました。当大分県立工科短期大学校は、授業の一環として、技能・技術の向上および日常の教育訓練の到達度を確認することを目的に、1、2年生全員そして教職員による大会見学を行いました。

技能五輪が九州でなお隣県で開催されることは稀であることから、これまで実施してきた県内企業の工場見学を今年度に限り振り替えました。また、「見て学ぶ」という教育も重要であり、学生時代にはなかなか見る経験ができない技能五輪の見学を授業に組み込みました。生産技術科の学生が見学した主な職種は、機械組立て、抜き型、機械製図、旋盤、フライス盤、曲げ板金等です。現在、実践技術者になるための教育訓練を受けている1年生、そしてほぼ教育訓練の仕上がり像を満足し、数ヵ月後にそれぞれの会社へ入社することが内定している2年生、それぞれにとって大変有意義な体験であったことと思います。同一世代の選手が熟練・卓越した技で一心不乱に競っているその姿を見て、学生たちはものづくりへの関心や興味、技能・技術に対する認識、就職への考え方、そして工学に対する意欲がさらに増したのではないかと思います。また、職員の立場においても、現在の社会現象でもある産業の空洞化がこれ以上加速しないためにも、即戦力となる人材を輩出し、各仕上がり像を満足した若い人材を各産業界に送り出す大きな役割を担っていることを再確認し、このことに産業界から大きな期待と信頼が得られると確信したと思います。ここに大分県立工科短期大学校の大きな役割そして使命があると思いま

す。

どんな時代が来ようとも、今後、ますますこの技能の祭典である技能五輪が衰退することなく、活性化することを願って止みません。最後に、技能五輪をきっかけに、教職員一同、今まで以上に「ものづくり」を基本とした技能・技術の習得はもちろんのこと、「ひとづくり」を目指して、人格形成も持ち備えた人材育成に努めていく新たな気持ちを持ったところであります。そして、近い将来、この大分県で技能五輪が開催されることを祈念し、その折りには、大会の一翼を担えればと思う次第です。



旋盤競技を見学している学生



グランメッセ熊本前で記念撮影
(生産技術科の1、2年生)